

季刊

ふれあい

秋

2019年9月
No.19

〒333-0831 川口市木曽呂1317

Tel.048-296-4771

Fax.048-296-7182

ホームページ：<http://www.kyoudou-hp.com>



特集

協同病院の医療技術職と地域

超音波診断装置撮影の様子(検査科)

「平和のための埼玉の戦争展」にも展示されました。



いのちのSAMBA9条の会 ～平和の木～

2007年から始めた赤ちゃんの足形署名。今年も子どもたちの未来を守りたいと賛同してくれたお母さんたちの思いを我が子の足形に託して、11作品目の平和のタペストリーが完成しました。青空に向かってまっすぐ伸びる木に、平和への願いが込められたたくさんの葉っぱが茂りました。この小さな足たちが歩む未来は、いのちが大切にされる平和な世界でなければいけないと切に願う私たちの思いは今でもまっすぐです！



協同病院の 医療技術職 と 地域

埼玉協同病院の医療になくてはならない、各部門のプロフェッショナルたち。高度な専門性と熱い志で、地域でも大きな役割を果たしています。2号連続で取り上げます。



放射線画像診断科

見えない病変を映し出すプロ集団 医療被ばく低減にもいち早く取り組む

三枝 美咲 診療放射線技師 放射線画像診断科

CT・MRI装置を駆使して地域の病院やクリニック診断科。「断らない」をモットーに、確かな技術

クからの検査依頼にも応える放射線画像を磨いています。



どんな仕事？

■レントゲンからMRIまで

レントゲン撮影や胃のバリウム検査、CT、MRIなどの撮影を担当するのが放射線画像診断科です。現在、26名の診療放射線技師が働いています。

私たちの仕事は、さまざまな装置を使って人体の内部の様子を映し出し、診療に役立つ画像を撮影すること。レントゲン検査をはじめ、CT検査、MRI検査、腹部などの超音波検査、血管造影検査、乳房X線撮影(マンモグラフィ)などを行っています。

■CT・MRI装置で一人でも多く撮影

埼玉協同病院には、性能の高いCT、MRI装置があり、それぞれ2台が稼働しています。CTは、X線を利用して主に人

体の輪切り(横断像)画像を撮影するものです。撮影時間が比較的短く、救急の撮影にも多く使われます。MRIは、強い磁石と電波を利用して体内の水素原子を画像化します。脳梗塞や脳出血など、脳の診断に効果的です。

検査は予約制ですが、緊急で撮影が必要になる方もいます。脳梗塞や脳出血などは一刻を争いますから、急な検査にも対応できるよう整備しています。少しでも多くの患者さんを受け入れ、必要な時に必要な検査を行えるよう努めています。

CTは1日50～60件、MRIは1日25件くらい。「断らない」をモットーに、努力を続けています。

■医療被ばくの不安をなくす

埼玉協同病院は、全国でもまだ100施設に満たない「医療被ばく低減施設」の認定をいち早く受けています(全国で41番目)。

きっかけは、東日本大震災後、放射線に不安を感じる方が増えてきたことです。当院では被災地での復興ボランティア活動に参加したこともあり、病院としての姿勢を示そうと認定を得るに至ったのです。

認定を取得するのは大変な作業。それでも、経過観察や長期通院などで検査を受け続ける方のことを考えると、生涯で浴びる線量は低い方がいい。患者さんのためにできることがあるなら全力で取り組みたいというのが、私たちみんなの思いです。

やりがいは？

■良い画像撮ることが喜び

腹部や乳房に機械を当て動かしながら映像を見る超音波(エコー)検査や、リアルタイムで観察できるテレビ検査は、死角があるので、見えない部分をどう映すかが腕の見せどころ。機械を当てる角度や位置、動かし方など、少しの違いで差が出ます。見たいものを画像に出せたというとき喜びを感じます。

健康診断の胃のバリウム検査でも、当院には、規定の枚数よりも多めに撮影する独自の基準があります。検査しながら状態を見て、病変に気づいたら、その箇所が見えやすい画像をさらに追加していきます。

技師は全員、どの検査も担当できるよ

うに技術を磨いています。今後は、何か一つ専門性を身につけて、より信頼される技師になっていきたいです。

地域とのかかわり

■法人内外から検査依頼を受ける

地域の中には、CTやMRIの装置がない診療所や病院も多いので、そうした先生方から、院内の地域連携課を通じて検査依頼を受け付けています。心がけているのは、断らないことと、なるべく早く結果をお返しすること。

検査結果をお返しするとき、病変の部分に矢印をつけるなどしてわかりやすく伝えています。

私たちの行う検査が地域の方の病気の早期発見・治療につながるようにしたいです。



リハビリテーション技術科

その人の生活や暮らしに 目を向けて 地域と連携して社会復帰をサポート

吉田 知行 理学療法士 リハビリテーション技術科 科長

病気やけがから回復する過程で大切なリハビリ。医師、看護師、社会福祉士などの多職種と協働して行っています。

どんな仕事？

■リハビリの専門職が協働

家庭、学校、職場、地域、サークル活動など、人はだれでも何らかの社会とつながりを持ち、役割をもって生活しています。病気やけがでその役割を遂行できなくなったとき、治療と同時並行でリハビリを行い、その人らしい生活に戻っていくサポートをするのが私たちリハビリテーション技術科です。

リハビリの専門職である理学療法士(P.T) 30人、作業療法士(O.T) 22人、言語聴覚士(ST) 6人が働いており、歯科衛生士も2人います。

理学療法士は、歩く、食べる、座るなど、日常生活で基本となる、体の大きな

動きに関するリハビリを行います。

作業療法士は、服に袖を通してボタンをとめるなど、手先の細かい動作のリハビリを行います。また、脳疾患で高次脳機能障害(脳の損傷により、言語、記憶、注意、情緒などの認知機能に起こる障害のこと)をもつ方や精神科の患者さんに、認知機能や精神分野のリハビリも行います。

言語聴覚士は、話す、聞くなど言語に関するリハビリに加え、発声のしかたや、食べものの飲み込み方を訓練することもあります。

これらの職種が協働し、まず、自分のことができるようになること(セルフケア)を目指します。それができるようになったら、家事や仕事の動作ができるように社

会を広げていき、なるべく元の社会に戻れるようにアプローチをしていきます。

■人工関節手術のリハビリを担う

協同病院の整形外科は、人工股関節や人工膝関節の手術で全国トップクラスの手術数を誇っています。そのため、リハビリの患者さんも多く受け入れています。

回復期リハビリ病棟があるのも当院の特徴です。日常生活を送るために最低限必要な日常生活動作(ADL=Activities of Daily Living)にこだわり、なるべく短い入院期間で目標を達成し、社会に戻っていくことを重んじています。

やりがい？

■その人の生活を思い、最善を目指す

退院後は、施設や在宅で日常生活をし



アプローチ方法は一人ひとり異なります。

望む生活に戻るために何が必要か、どのような方法があるか、考えられるベストの提案をしますが、実際やってみると、思ったようにいかないこともあります。そんなとき、状況に応じていかに柔軟に、次の最善策を提案できるかが重要。なるべく多くの事例を蓄積し、似た事例があったときにうまく提案できるよう、常に心がけています。

その人の生活や暮らしに目を向けないまま社会に返すこともできると思いますが、ご本人とご家族のことを思うと、目を向けずにはいられません。それは、この病院が大切にしている姿勢でもあります。

地域とのかかわり

■専門家や施設、機関と幅広く連携

けがや病気で重い症状がある場合、地域の施設(老人保健施設、診療所のデイケアや訪問リハビリなど)や職業訓練機関との連携が不可欠です。

ご本人とご家族がどのような生活を望んでいるかを最優先にして目標を設定し、病院のリハビリでどこまでできているか、退院後、どのようなアプローチが望ましいかを関係者全員で話し合い、共有します。そして、その方の生活状況を随時連絡し合い、それぞれが役割に応じた援助を行います。

精神科にも関わるリハビリテーション科 ～精神科デイケア

精神科デイケアは、当院の精神科に通っている患者さんを対象に、さまざまなプログラムを通じて社会に出る練習をする場です。

このデイケアが「小さな社会」。生活のリズムを整える、仲間をつくる、就労するなど、それぞれが目標を持ち、楽しく活動しています。スタッフは、保健師、作業療法士、精神保健福祉士の3職種です。

精神科デイケアでは、時間やマナーなどのルールを守ってもらうこと、メンバーの自主性に任せることを重視しています。「みんなで決めて、みんなでやる」「相手を尊重しながら自分の



清水 康世
作業療法士
リハビリテーション技術科
主任

意思を伝える」といった経験を積みながら、その方の変化を見守ります。

どんな活動をしたいか、翌月のプログラムを決めるのもメンバー自身。話し合いをサミットと呼んだり、簡単な料理を習いたいなどのアイデアや要望もどんどん採用します。今後も、曜日を拡大し、より個別目標に合わせたデイケアを目指します。



月・水・金の週3回。
9時30分～15時30分まで。
花見やクリスマス会、日帰り旅行など季節のイベントもあります。
参加については、主治医とご相談ください。

関わる人の範囲は幅広く、ケアマネージャー、訪問看護師、訪問リハビリ、介護ヘルパー、作業所を併用している方は事業所のスタッフ、生活保護の方は市の生活保護担当ケースワーカー、就労を目指している方は就労移行事業所など多岐



にわたります。

法人内に、急性期、回復期の病棟と、生活期の老人保健施設、診療所、訪問ステーションをもっているのも、互いに連携し、情報共有できることも強みです。より連携を深めて退院後のフォローも強化していきたいと考えています。

■認知症の学習会で知識を広める

言語聴覚士と作業療法士が、認知症ケアチームの一員として地域を訪問し、認知症の学習会を行っています。公開講座も開催し、認知症がどういうものか、どう対応すればいいかを伝えています。

認知症に特有の症状や、周囲の適切な対応や理解は、まだまだ進んでいないと感じます。大切な活動として取り組んでいます。

■各支部や班会での保健予防活動

「予防リハビリ」といい、転倒して骨折しない体づくりを推進する活動を行っています。各支部や班からの要請を受けて、「いつでもどこでも体操」というオリジナルの体操を紹介し、指導しています。

「地域包括ケア」という言葉が生まれるずっと前の病院創立当初から、こうした理念で予防活動に取り組んできたことは、当院の大きな特徴だと思います。



検査科

多くの人の命を救う力になりたい —地域の感染症防止や保健教室も

大塚 友梨 臨床検査技師 検査科

健康診断や診療に欠かせない検査。最新分析機器と技師の力量は、地域の中でも重要な役割を担っています。



MALDIバイオタイパー(質量分析装置)

どんな仕事？

■適切なデータを早く正確に届ける

正確な検査結果を迅速に報告し、医師に伝えることが私たちの使命です。検査科は34人の臨床検査技師が働いており、採血センター、血液や尿を調べる緊急検査室、心電図や超音波検査をする生理検査室、組織や細胞を調べる病理検査室、病気の原因菌を探ったり、病原菌に効く抗菌薬(抗生剤)を確認したりする細菌検査室があります。

やりがい？

■技術を磨き、人々の命を救う力に

細菌検査室では少しでも早く検査結果を出すために、埼玉県内でも数少ない最新の分析機器(MALDIバイオタイパー)を導入していますが、その機器を操作す

る技師の力量もものを言います。熟練の技師を育成するのが私の役割の一つです。幼い頃、大好きな祖父をがんで亡くしたことが検査に関わる仕事を志すきっかけでした。検査技師として、少しでも多くの人の命を救う力になりたいです。

地域とのかかわり

■優れた技師を育て、院所間の交流を密に

新人技師は埼玉協同病院で育て、専門知識や技能を身につけた段階で法人内の各診療所で活躍しています。診療所でそれぞれの地域とかかわり経験を積んだら、再び埼玉協同病院に戻ります。人材が行き来することで院所間の風通しがよくなり、情報共有もでき、地域全体で検査の質を高め合うことができます。

■耐性菌の脅威から地域を守る

従来の抗菌薬(抗生物質)が効かない耐

性菌(薬剤耐性をもつ細菌)の増加が社会問題となっています。どの耐性菌が多いかは地域によって特徴があるので、院内だけでなく、地域全体で感染防止対策に取り組むことが必要です。細菌検査室では、法人内外の病院と連携した地域合同カンファレンスに参加して、適切な抗菌薬の使用法の普及や耐性菌の増加防止に力を入れています。

■保健教室で健康増進を指導

保健教室や班会で、検診結果の見方を伝えたり、塩分チェックの指導をするなど、組合員さんと接する機会があります。検査技師が地域の方々の健康増進にかかわる機会は、他の病院ではほとんどないので、医療生協で働く検査技師ならではのやりがいではないでしょうか。

いつでもどこでも体操

いつどこ体操の一部を紹介します

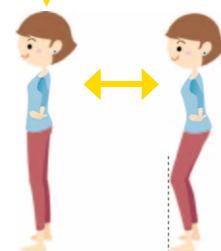
イラスト
けんこうと平和2015年9月号
今日から始める簡単エクササイズより

膝の屈伸運動

両手を腰に当て肩幅に足を開きます。両膝をゆっくり曲げ60～90度曲がったところで止め、その後ゆっくり膝を伸ばし元に戻します。

基礎代謝アップ
筋カトレーニング
から

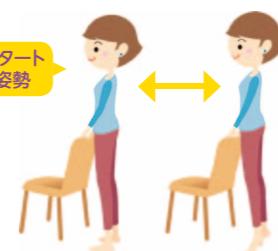
スタート
姿勢



つま先立ち運動

椅子の背もたれなど何かにつかまり、肩幅に足を開きます。かかとを床から浮かせつま先立ちになり、その後ゆっくり元に戻します。いずれも1 2 3 4とゆっくり数えながら膝を曲げ、5 6 7 8とゆっくり数えながら膝を伸ばします。この運動を8回行います。

スタート
姿勢



膝の屈伸と手のリーチ運動

両手を腰に当て肩幅に足を開き膝を曲げます。膝を伸ばしながら左腕を右斜め上に伸ばし、膝を曲げながら腕を元に戻します。次に膝を伸ばしながら右腕を左斜め上に伸ばし、膝を曲げながら腕を元に戻します。1 2で膝と腕を伸ばし、3 4で伸ばした膝と腕を元に戻します。5 6で膝と反対の腕を伸ばし、7 8で伸ばした膝と腕を元に戻します。

スタート
姿勢

転ばない体作り
全身運動から



専門医18
シリーズ
S E R I E S

石丸 純夫
医師
脳神経外科 部長

脳卒中などの患者さんを一人でも多く助けたい

突然起きる脳卒中は、一刻を争う病気です。埼玉協同病院では、救急外来のほか、平日午前脳神経外科の外来診療を行っています。担当するのは、脳神経外科と脳卒中の専門医、石丸純夫医師。40年以上、この道一筋に歩んできた大ベテランです。

プロフィール▶日本脳神経外科学会専門医、日本脳卒中学会専門医、日本リハビリテーション医学会認定臨床医、日本頭痛学会専門医。1978年順天堂大学医学部卒業、1999年済生会川口総合病院脳神経外科主任部長、2017年より埼玉協同病院勤務



学生時代に父を亡くし 脳神経外科の道へ

穏やかな語り口が印象的な石丸医師は、江戸時代初期の漢方医から18代続く、医師の家系に生まれました。内科・小児科の開業医をしていた父のもと、順天堂大学の医学部に進学。ところが大学2年のとき、人生を左右する出来事に直面しました。

「父が亡くなり、医院が閉鎖になったんです。跡を継ぐ必要がなくなり、それなら好きな専門分野に進もうと思いました」

大きく影響を受けたのが、脳神経外科の権威で、恩師でもある石井昌三教授(前順天堂大学理事長・故人)の臨床講義でした。

「実際の患者さんを診ながら症状や病気の説明をする内容で、非常に面白かったんです。後で聞くと、教授は教授室に泊まり込み、徹夜で準備するほど力を込めて講義してくれていたそうです。その熱意を受けて、脳神経外科の世界にどんどんひかれていきました」

家に帰れなかった新婚時代

卒業して医師免許を取得すると、すぐに大学病院の脳神経外科の医局に入局しました。

「昔は研修医の制度がなく、直接、入局していたんです。医局はタコ部屋のようなところで、『白い巨塔』そのものの徒弟制度が残っていました。最初の数年間は無給の助手です。アルバイトをして食いつなぐのが当たり前。放射

線科、神経内科、外科、麻酔科などや大学医局の関連施設をローテーションして経験を積み、専門医取得後はドイツに留学させていただきました。30歳で結婚しましたが、月の半分は当直で家を留守にしていましたよ」

通常の診療時間外でも、緊急の患者さんが運ばれてくる。脳の病気は一刻を争いますから、夜間も気が抜けません。

「恩師の石井先生いわく、『脳神経外科医の家庭は、父親のいる母子家庭みたいなもの』。第一線で手術していると時間はかかるし、緊急で呼び出されるし、当直はするし。平日も早くは帰れない。そうして時間に追われながらも、世の中には、救急の患者さんを1人も断ったことがないという途方もない医

師がいます。そうした方々に比べると、僕はまだまだ平均的だと思います」

脳卒中には3つのタイプがある

脳神経外科医になって40年。その大半を手術の第一線で過ごしてきました。2017年に埼玉協同病院に移るまでの19年間は済生会川口総合病院に勤務し、脳神経外科の主任部長として、手術が必要な患者を協同病院から受け入れるなど強い連携体制を敷いてきました。

「脳卒中には3つのタイプがあるんです。脳の血管が詰まる脳梗塞、脳の細い血管が破れて出血する脳出血、血管にできたこぶ(脳動脈瘤)が破裂して出血するくも膜下出血です。手術の対象となるのは、主に脳出血とくも膜下出血です」

いま、埼玉協同病院では、手術が必要だと思われたときは、済生会川口総合病院や川口市立医療センターなどに患者さんを転送します。

「自宅にいるときでも、救急現場から相談の電話がかかってきます。現在は飛躍的に技術が進歩していますから、CTやMRIの画像をタブレット型

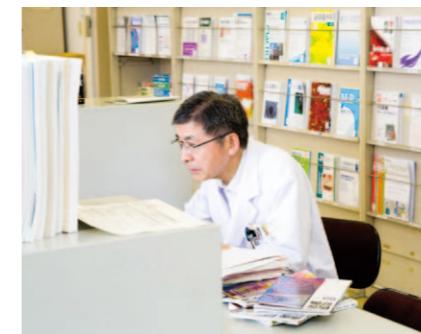
端末に送ってもらい、転送が必要か、どの薬を使えばいいかなどを判断して電話で伝えます。長年の経験があるから、症状を聞いて画像を見れば、だいたいのはわかります」

初期症状のサインは「FAST」

石丸医師によると、脳卒中の「卒中」は「卒(にわか)に中(あたる)」という意味で、突然、障害が起きることを指すそうです。

「治療の合言葉は、タイム・イズ・マネー(時は金なり)ならぬ、タイム・イズ・ブレイン(時は脳なり)。治療は早ければ早いほどいいのです。異変に気づいたら、なるべく早く受診してください。酒やタバコ、食生活など、生活習慣を見直すことも予防の基本です」

異変を見分ける方法として、「FAST」



という言葉覚えておくといいそうです。

「Fはフェイス(顔の麻痺)、Aはアーム(腕の麻痺)、Sはスピーチ(言葉の障害)、Tはタイム(発症時間)。顔がゆがんでいたり、片方の腕や足に力が入らなかったり、うまく言葉が話せず、ろれつが回らなかったりしたら、すぐに119番を。発症した時間を確認しておくことも大切です。症状が消えても安心せず、受診することをおすすめします」

長い経験の中で、助けることができた患者さんもいれば、後遺症が出た患者さんもいるのが現実です。

「助けられなかった人のことが心に残りますが、脳出血の手術をして元気になった女の子が成長している姿を見ると、心からうれしいと思う。これからも少しでも役に立てればいいです」

石丸医師はいま、時間があれば院内の図書室に行きます。本人は「ばけ防止」だと笑いますが、てんかんや認知症、リハビリなど専門外の勉強もし、治療に生かしています。その豊富な経験と知識、命に向かう姿勢から、若い医師たちは多くを学んでいることでしょう。

ひとつぶの会
ボランティア
座談会



(左から) 瀧口 幸子さん(ボランティア)、関根 サダ子さん(ボランティア)
心電図モニターを入れる袋の裁縫をしています

埼玉協同病院を支えるボランティアの方々。院内で様々な活動に取り組まれています。関根さんと瀧口さんにお聞きしました。

—ひとつぶの会とは？

関根 埼玉協同病院には「ひとつぶの会」があり、さまざまなボランティア活動を行っています。発足は1992年。ボランティア元年(1995年)という言葉が生まれる前から力を入れていたというのは、すごいことですね。
瀧口 私は参加して約1年半。週1回、できる範囲で活動しており、今日もこれから4、5人で裁縫のボランティアをするんです。いろいろな年代の方が集まっていますので、お話をするのが楽しいです。中には、20年以上続けている方もいらっしゃるんですよ。

—ボランティアをしてよかった！と感じる瞬間は？

瀧口 1階のフロアで患者さんの案内をするのですが、自分が患者の立場なら、どのように心配り、目配りをしてほしいだろうかといつも考えるんです。声をかけるといろいろお話ししてくださり、「家に帰っても一人だから、話ができてうれしかった」「ありがとう」と言ってくださるお年寄りも多いです。誰かと話をするきっかけがほしいんですね。そんなとき、少しでもお役に立てたかなあと思うんです。
関根 本当に喜ばれますよね。私は、

定年退職した後も、こうして“来る場所”があるのがうれしいです。大きな力はないけれど、みんなに会えて、一緒に活動することで元気をもらっています。

—活動に参加するには？

関根 病院は人の命を預かる場所ですから、まず、医療生協の「ボランティア学校」に参加して講習を受けます。その後、実際にボランティアを体験し、できそうだなと思ったら登録し、活動に参加します。

瀧口 活動内容は幅広く、入院患者さんの病棟への案内、健診や講習会の際の保育援助、草むしりや花を植える環境美化など多岐にわたります。隣接する老健施設で、入居者の方と歌や紙芝居を楽しむ院外活動もありますよ。

関根 いずれも強制ではなく、自分に合った活動をすることができます。ボランティア活動は、自分のためでもあり、人のためでもあります。ここが皆さんの「つながりの場」になることを願い、がんばっています。私たちと一緒に活動しませんか？ご参加をお待ちしています。



ピンクのエプロンが目印。精進橋の抜くもい案内します。

支え合う喜びを味わい、広げよう
協同病院を支えるボランティア募集中！

第2回ボランティア学校 11月26日(火)13:30～ 希望者はピンクのエプロンのボランティアに声をかけてください。



「ご存じですか？」

ド
ラ
イ
ド
フ
ー
ド
ご
案
内
の



食べきれない食品を地域で有効活用してみませんか？

この5月24日に「食品ロス削減法」が成立しました。日本では年間620万トンの食品が廃棄され、4割近くは家庭から捨てられているそうです。まだ食べられる食品を集め、必要な方に誰にでもお渡しできる、そんな循環が地域で生み出せればと思っています。ぜひご協力をお願いします。

ご提供にあたりご注意いただきたいこと

- ①賞味期限が明記され、かつ2ヶ月以上あるもの
- ②常温で保存が可能なもの
- ③未開封であるもの
- ④お米は常識の範囲で古くないもの

食品のお預かり・お渡し場所

協同病院D館 1階生協コーナー
老人保健施設みぬま
1階事務室



総合サポートセンター 竹本 耕造



たまねぎベビー
といっしょに

夜尿症

朝起きて布団に描かれていた世界地図、誰もが通る道『おねしょ』、3～4歳くらいまでは『あら、またしちゃったの～』くらいに思っていたのが、5歳を過ぎてトイレが自立した後も続くと、段々と不安になってきますよね。寝ている間に作られる尿の量が多すぎる、膀胱に尿を十分溜められないなどが原因で起こる『夜尿症』、5歳以降も頻繁におねしょが続く場合は『夜尿症』が考えられます。気になる症状がある場合には一度受診をしてみませんか？夜尿症の治療には、時間がかかるかもしれませんが、焦らず、根気強く付き合うことが大切です。



夜尿症と上手に付き合うための10ヶ条

- ①早寝、早起き、生活習慣を整えて、良い眠りを！
- ②トイレに行ってから寝る習慣をつけよう！
- ③夜中はトイレのために起こさない！
- ④子どもも自分も責めないで、焦らず治療に臨みましょう！
- ⑤気合いや根気で治るものではないので、心理的ストレスが溜まらないよう、怒らない！
- ⑥約束が守れたり、夜尿がなかったりしたらしっかり褒めよう！
- ⑦自尊心を傷つけないよう、絶対他とは比べない！
- ⑧寝る2時間前からは水分摂取は控えめに！
- ⑨寝ている時の冷えにも注意！
- ⑩オムツや防水シーツなどを利用して心の負担を減らそう！

もしかして『夜尿症』と感じたり、心配なことがあったりしたら、ぜひ小児科で相談を！

増田院長の

今日もニコニコ😊 VOL.19

院長
増田 剛



医療水準向上を支える医療技術職を応援してください

ふれあい19号では病院の診療レベルの発展に欠くことの出来ない医療技術職(今回は放射線画像診断科、リハビリテーション技術科、検査科)をご紹介しました。自明の事ですが、医療の世界では、こうした多彩な国家資格を有した専門家が、日々腕を磨き、プロフェッショナルとして診療を支えること無しには患者様の生命と健康を守ること出来ません。どの分野も求められる水準が年々高度化しており、他の施設の同業者とも切磋琢磨し、常に向上心を持って学び続けることが求められています。個々の医療技術職の不断的努力があってこそその協同病院全体の診療水準の向上であり、それ無しには地域の皆様からの信頼は決して得られないということを是非ともご理解頂き、これからも彼ら彼女らを大いに励まして欲しいと思います。宜しくお願い致します。



7/20(土)、癒しのイベントを開催しました。
「姫と亀の会」の皆さんにお越しいただき端唄・舞踊・三味線のお座敷遊びを行っていただきました。
病院利用委員会



虹の投書箱だより

投稿のご紹介

- 入院患者さん用の浴室の清掃がいきとどいていません。入院生活の質が低くなります。脱衣所の床が不潔です。
 - トイレの床掃除を丁寧にしてほしい。
(トイレ、病棟浴室の清掃については、複数のご意見をいただきました。)
- 貴重なご意見ありがとうございます。
入院、外来ともに清掃の回数を今年度から増やし、専門業者の清掃を追加するなど対応しています。みなさまによりよい環境が提供できるように今後とも努力してまいります。
よろしく申し上げます。 (環境管理課 課長 小野 秀敏)